

川井弘子 ソプラノリサイタル

Hiroko Kawai Soprano Recital

ヴァイオリン：ピルジュ・キム

Violin: Pilju Kim

ピアノ：マールテン・ヒレニウス

Piano: Maarten Hillenius

とき

2019年9月26日(木)

18:30開演(18:00開場)

ところ

豊川市小坂井文化会館 フロイデンホール

(TEL:0533-78-3000)

[前売り] 一般=2,500円/学生=1,500円 } <全席自由>
[当日] 一般=3,000円/学生=2,000円 }

※当日券はフロイデンホール入場受付にてお取り扱い致します

※会場の駐車場に余裕がございません。ご来場は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。JR東海道本線「西小坂井」駅下車が便利です。
(JR東海道本線にて「豊橋駅」より「西小坂井駅」まで乗車時間約4分)

お問い合わせ：川井弘子ソプラノリサイタル実行委員会
Tel/Fax 0532-56-0252(齋藤) 平日 18:00~21:00

チケット取扱い：豊橋市民文化会館 (Tel 0532-61-5111)
ほの国百貨店プレイガイド(6F) (Tel 0532-53-5064)
名豊ミュージック (Tel 0532-55-5754)

- 主催：川井弘子ソプラノリサイタル実行委員会
- 後援：オランダ王国大使館・豊川市・豊川市教育委員会・(公財)豊橋文化振興財団
- 協力：豊橋合唱協会



Message

東海地域の皆さま、はじめまして!「うまく歌える『からだ』のつかいかた」の著者で、ソプラノの川井弘子です。齋藤喬先生が2015年4月初版の拙著を偶然手に取られ、また日本声楽発声学会会員でおありだったことや、2017年の京都の演奏会にお越しくださったことがきっかけとなり、今年5月の講座開講に引き続いて、この度、この地での演奏会をさせていただける運びとなりました。大変うれしく、心より感謝いたします。

私のリサイタルには、例年、アムステルダムからピアニストのマルテン・ヒレニウス氏をお呼びしています。さらに今回は、ソウルから、韓国を代表するヴァイオリニストの一人である、ピルジュ・キム氏にも駆けつけていただける幸運に恵まれました。

ヘンデルの「クレオパトラのアリア」では、愛情と悲しみと喜びが、力強く表現されています。一方、モーツァルトでは、純粋な愛がこの上なく美しい音楽に乗っています。ナチス・ドイツによる強制収容所で亡くなったチェコの作曲家シュルホフの歌曲は、何とも不思議な雰囲気醸し出しています。日本歌曲は、ピアノ譜からキム氏がヴァイオリンパートを創作くださったことで、より情緒が増しています。

ご多用のことと推察いたしますが、お誘いあわせの上、どうぞご来聴いただけましたら幸いに存じます。

Program

■G.F.Händel ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
歌劇「ジュリオ・チェザレ」よりクレオパトラのアリア
V'adoro, pupille あなたを恋慕います、瞳よ
Se pietà di me no senti 私を哀れんでくださなければ

■W.A.Mozart ヴォルフガング・アマディウス・モーツァルト
歌劇「羊飼いの王様」よりアミンタのアリア
L'amerò, sarò costante あの人を愛そう

■山田耕筰:曼珠沙華(北原白秋 詩) 小林秀雄:落葉松(野上彰 詩)
斎藤佳三:ふるさとの(三木露風 詩)

■E.Schulhoff エルヴィン・シュルホフ
Drei Stimmungsbilder für eine Sopranstimme,
Violin und Klavier op.12
ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノのための「3つの印象画」作品12
Sangen Geigen übern See 湖上をゆくヴァイオリンの歌
Schließe Deine Augen zu 目を閉じてごらん
Weißt Du 知っているだろうか

■R.Strauß リヒャルト・シュトラウス
Die Rosenband 薔薇のリボン
Cäcilie ツェツィーリエ
September 九月
Beim Schlafengehen 床につく前に
Im Abendrot 夕映えに包まれて 他

(プログラムは、変更される場合がございます。)

Profile

川井 弘子

Hiroko Kawai / ソプラノ



ドイツ・オランダ・アメリカで学んだリリック・ソプラノ。

倉敷市生まれ。広島大学教育学部音楽科を首席で卒業、東京学芸大学大学院修了(教育学修士)。ドイツ・シュトゥットガルト音楽大学とオランダ政府給費留学生としてユトレヒト王立音楽院に学び、ミュンヘンとアムステルダムにおいても研鑽を積む。

これまでに永井和子、日比啓子、故・木下武久、ジーン・シュタヴスキー、エリー・アーメリング、ルドルフ・ヤンセン、マリアンネ・ブロックの諸氏に師事。1992年よりリサイタル活動を倉敷で開始。以来ほぼ毎年、また2009年からは京都、2010年からは京都と東京でも同時開催するほか、ウィーンフィル首席クラリネット奏者の故・E.オッテンザマーやSt.ペテルブルク交響楽団の首席弦楽奏者たちとの共演、大学女性協会主催の「女性作曲家を聴く」など、多数の演奏会に出演。

2001年にはアメリカで、演奏家に《ボディ・マッピング》を指導するアンドーヴァー・エジュケーター資格を取得。以来、「音楽家ならだれでも知っておきたい『からだ』のこと」の講座で全国的に活動。

1990年から2006年まで大学でも教鞭を取り、2015年4月に刊行した初の自著「うまく歌える『からだ』のつかいかた〜ソマティクスから導いた新声楽教本〜」は音楽書のベストセラーとなる。2018年7月その【実践編】を刊行、現在3冊目を執筆中。

歌って、ソマティクに教える異彩あふれる声楽家。倉敷市在住。東京・京都・大阪で、毎月、教えている。

公式Webサイト <http://www.hirokokawai.com>

ピルジュ・キム Pilju Kim / ヴァイオリン



ソウル生まれ。漢陽大学卒業後、独デトモルト音楽大学に留学。ティボール・ヴァルガ氏に師事し、彼のアシスタントとして同音大で教鞭を取る。

1968年、米国とカナダの120都市でのヴァイオリン・ソリストとして、192回の演奏旅行で、音楽界にデビュー。その後、ヨーロッパ各地と韓国内の多数の交響楽団のコンサートマスターとして、1000回以上の公演を重ねる。仏、スイス、露、米、韓国、台湾、日本などでソリストとして40回以上公演。韓国にて、全国交響楽団コンサートマスター協議会会長、江南大学音楽学部教授を歴任する韓国を代表するヴァイオリニストのひとり。

マルテン・ヒレニウス Maarten Hillenius / ピアノ



アムステルダム生まれ。ピアノをアムステルダム王立音楽院とユトレヒト王立音楽院に学ぶ。在学中から特に声楽伴奏者として活躍し、伴奏法をN・リー、I・ゲージ、R・ヤンセンの諸氏に師事。ヨーロッパ各地で多数の演奏会を行うと同時に、オランダ・フランス・スペイン・ポルトガルでテレサ・ベルガンサやイヴォンヌ・ミントンなど多数の著名な歌手のマスタークラス公式伴奏を務める。CDもリリースされ、現在、アムステルダム・センターオペラとネーデルランド・オペラ・アムステルダム、2001年からロッテルダム王立音楽院でも教鞭をとっている。今回で14回目の来日である。